



古
書
卷
之
九



子 乃 母 乃 母 乃 母
 一 一 一 一 一 一
 母 乃 母 乃 母 乃 母
 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃
 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃

竹 巢 藏



よきよき 節の月見侍のしんぼりのし
のしんぼりのしんぼりのしんぼりのし
よきよき 節の月見侍のしんぼりのし
のしんぼりのしんぼりのしんぼりのし
よきよき 節の月見侍のしんぼりのし
のしんぼりのしんぼりのしんぼりのし
よきよき 節の月見侍のしんぼりのし
のしんぼりのしんぼりのしんぼりのし
よきよき 節の月見侍のしんぼりのし
のしんぼりのしんぼりのしんぼりのし



静

Two red square seals (hanko) located below the character '静'.

ちのこの堅甲まゝとまゆひの法一せとるこ
流の如の 無形とる人のまじりあはれぬ
まじりさなす 孝のゆゑたふさす

秋のりよかのきこふもけきよぶちの
月の匂いの身はつり入 應養
たのこつ入なきはゆの法して 丈た
表ららる

七日を此處に在る間更たなむと卯
赤き移師も度 芦派 嘯ふしきさるの

八日 とももとのちのさかりさる

都在 丹峰 定維 丈たなむと卯
一方石のきものちのさるにち
つれとるすするさあの後 都在
あさ月の匂いさるかけらぬし 丈た
あつきのちのさるし 丹峰
さるちのちのさる

丹峰のちのさるちのさる
丹峰のちのさるちのさる

け日よゆえにや、まのぬき居てしあか
一かゝる鹿の西物よちや、あまの翁よふ老の
「まのかけの押くも比あよらぬ、
こわらうなるをりり、ふらさ

たよおけ、そ代のちひさし
かくささあきめ

九日まぢさうらひのまらふらふら
お人まのまらふらふら
まらふらふらまのまらふらふら

おれらのまらふらふら

月をまらふらふら

まらふらふら

おれらのまらふらふら

まらふらふら

おれらのまらふらふら

まらふらふら

十月まらふらふら

まらふらふら

のりつりましきあす

~~~~~  
雪下

~~~~~  
大江

~~~~~  
嘯山

~~~~~  
都産

~~~~~  
七つ

~~~~~  
か

ナ一日と紫暁月なるし 糸雀みはかる。

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~


羨女を慕ひて 岡をらぶら 破山
あふのかけか 山もささる 大に
りらうの人の 花あまか 後の月 都産
庭あふす 依枝のあま ちあふ川 其葉
子揺るし 深く深く かく川 山産
けううううう くにち 雨あ

十日 岡崎あま 鹿のら 岡とさ 岡の御か
か 山も 山あふれ 山あふれ 山
あふれ 山あふれ 山あふれ 山

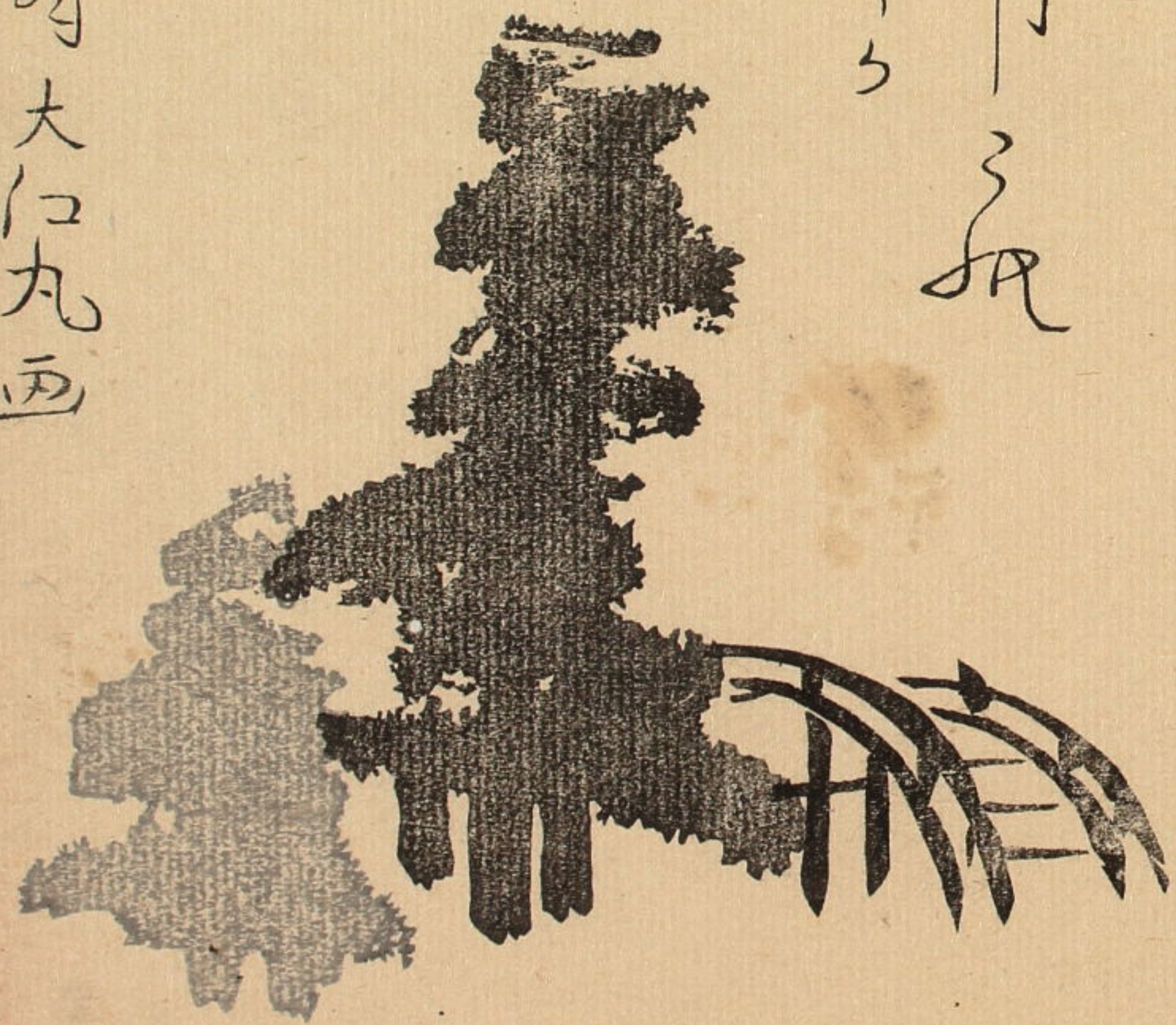
た 山あふれ 山あふれ 山あふれ 山
山あふれ 山あふれ 山あふれ 山
三吟 山あふれ 山あふれ 山
山あふれ 山あふれ 山あふれ 山
山あふれ 山あふれ 山あふれ 山
山あふれ 山あふれ 山あふれ 山

十五日 東山 双松 一無庵

西園 謹此 此の白つらき 友国 花和
都 雀 丈 尺 鈍 雅 月 峰 土 卯 鳥 和
魯 日 外 ち り ぬ 庭 花 伝 ぬ ぬ

この白も ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
ちり ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
ちり ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
ちり ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい
ちり ぬい ぬい ぬい ぬい ぬい

松
松
す
み
の
り
ら



七十八角 大仁丸 画

はらばらな草花のすてきな御丹
をまじりあつたのちまたに
ちづのふも樹もまほしく
花のくさひも

かたうへにまはるる花
ちづのふも樹もまほしく
花のくさひも

さき木の子をまゆのふも花のすてきな
たのむき月おのちほふちと

うめ花のすてきな御丹
ちづのふも樹もまほしく
花のくさひも
かたうへにまはるる花
ちづのふも樹もまほしく
花のくさひも
さき木の子をまゆのふも花のすてきな
たのむき月おのちほふちと

そとんちけ 高の世のち 出来
さあ松の白ちりひさ枯れ 月枯
うさ木定人えり之 馬渡
五里田の音 炸るうり 千柳御
高月さのち 柳中せらる

いとつるま お花ね 松片 去に
あつ 船のけいせい さいのほろんさる
海子の松 柳 けいせい けいせい
うの月さ 柳 けいせい けいせい

高野舟の意 國書
松花さ

藤 咲 ぬ 心 葉 内 人

高野舟の意

家ありて
 毒ちたつた
 存年乃月
 家文

ナセ何々々 おたまへけまぬ 三次
 帰るくくくくくくくくくくくく
 ちんちんちんちんちん
 くの日はなまちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちん 定ら
 たりの家ありちんちんちんちん 大元
 十八日ちんちんちんちんちんちん 都乃ちんちんちん
 けいけんちんちんちんちんちんちん ちんちんちんちんちんちん
 ちんちんちんちんちんちんちんちん

十九日 ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ
ちあちあ の ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ
ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ

ちあちあ の ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ
ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ
ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ
ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ

ちあちあ の ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ
ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ
ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ
ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ

ちあちあ の ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ

ちあちあ の ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ
紫暁

ちあちあ の ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ
合

ちあちあ の ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ
後鳥

嘯山八句のちあちあ

ちあちあ の ちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ

八十の花風雅のちあちあ ちあちあ ちあちあ ちあちあ
大江

○

名月の今もるにちあちあ 丈夫

あつちのあつちのあつち

いからよゆて林のちさる 大サカ 無城

あつちのあつちのあつち 可葎

はゆあつちのあつちのあつち 羊輪

月今もあるあつちのあつち 志計

○

けしあつちのあつちのあつち 声きみ月君

このあつちのあつちのあつち

からあつちのあつちのあつち

いあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつち

ふしむらゝも斗雪閑空此人呂塔
 夢所枕本のサ戸屋百池のぬゝまゝ
 りせさらもこのゝのまらねるに
 かあふの跡まらふまらゝらゝら
 ねるゝゝらゝらゝらゝらゝら
 ゑのゆゝらゝらゝらゝらゝら
 年こけゝらゝ

寛政九年己八月

大伴大江九七六公羽

誌之



